

# 親子防災訓練に参加

9月1日は防災の日。多くの学校で避難訓練が行われますが、家ではどんな準備をすればいいのでしょうか?

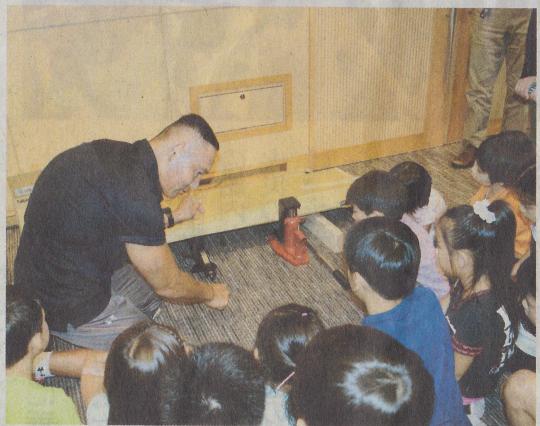
東京都港区の東京ミッドタウンで23日に開かれた「親子で防災トレーニング」に参加し、災害への備えや対応策を学びました。

(小5・田中優衣、小6・目時真羽、中1・若尾美紀、高2・堀江理聖記者)

親子が対象のこのイベントでは、心臓マッサージの方法を学び、目隠しした人を誘導して階段を下りるなどの訓練を体験しました。講師は、横浜市の消防訓練センターの元体育教官で、災害に強い人材を育成する会社の社長を務める鎌田修広さん(46)。私たちは、中高生が親の役、小学生が子ども役として参加しました。

けがをした大人を子ども

ジャッキの使い方を参加者に教える鎌田さん(左奥)



## ジュニア記者の感想

災害時には、食事だけでなく、用を足すことも大事だと学びました。非常食だけに目を向けがちですが、簡易トイレも準備しておこうと思います。

(田中)

子どもでも、協力すればたくさんの命を救えるのだと知りました。災害をただ怖がるのではなく、家族と話し合って備えておこうと感じました。

(目時)

家族が離れた場所で被災した場合、どこで落ち合うか、話し合ったことがありませんでした。この機会に決め、準備万端でいたいと思います。

(若尾)

「ポジティブ(前向き)な言葉を口にする」と大きな力が發揮できる」という鎌田さんの教えを、訓練の中で実感。災害時はもちろん、ケアレスミスが多い数学のテストの前にも、前向きな言葉を発してみたいですね。(堀江)

最後まで生き残るのは「思いやりのある人」だと、鎌田さんは語ります。他人を思いやる余裕がある人は、事前に備えをしているからだと言います。いざという時に思いやりのある行動ができるように、十分に準備しようと思います。



担架代わりの毛布で人が運ぶ訓練。子どもでも大人を助けられることを学んだ

## 事前の備え 心に余裕

が安全な場所に搬送する訓練では、毛布を担架代わり

にしたり、ブルーシートの上に寝かせて運んだりしました。うまくいかない時は、無事だった大人に大声で助けを求める。「災害時は声が大きな“武器”になります。

参画者の親の中に役を選び、子どもが負傷者役を先に助けられるか試した人もいました。子どもは死者役の親を気にしながらも、けが人役を先に助けたそうです。理性的に行動することで、より多くの命を救えるのだと学びました。

真っ暗にしたホール内で、がれきに見立てた机のかげにいる子どもを親が捜す訓練を行いました。携帯電話の明かりを懐中電灯代わりにし、子どもの名前を呼びながら、たくさんある机のかげをのぞいていきます。

ジュニア記者のペアが一緒になれたのは、参加者の中で一番最後でした。訓練中は、あちこちで名前を呼ぶ声が行き交つて混乱しましたが、親子だと互いの声を聞き分けやすいのでしょう。強い絆を感じさせられました。

最後まで生き残るのは「思いやりのある人」だと、鎌田さんは語ります。他人を思いやる余裕がある人は、事前に備えをしているからだと言います。いざという時に思いやりのある行動ができるように、十分に準備しようと思います。